

「NUMO セーフティケースに関する外部専門家ワークショップ」開催のご案内

現在、NUMO では、最新の科学的知見や技術開発成果を反映し、高レベル放射性廃棄物および TRU 廃棄物の安全な地層処分をどのように実現するのかを説明するための包括的技術報告書「わが国における安全な地層処分の実現性 ―サイト選定で想定される多様な地質環境を対象としたセーフティケース―」の取りまとめを行っています。

このたび、この包括的技術報告書を取りまとめるにあたり、地層処分技術に関連する学会に所属する専門家にご意見を伺うことを目的とした「NUMO セーフティケースに関する外部専門家ワークショップ」を開催します。多くの専門家の方々のご参加をお待ちしています。

概要

日時・場所： 東京と大阪で開催します。

(1) 大阪会場（定員：100名）

日時：2016年9月21日（水） 9:30～17:30（開場 9:00）

会場：大阪科学技術センタービル 4階 401号室（大阪市西区靱本町 1-8-4）

会場詳細はこちら <http://www.ostec-room.com/html/access/access.html>

アクセス：地下鉄四つ橋線本町駅 28号出口 徒歩 5分

地下鉄御堂筋線本町駅 2号出口 徒歩 8分

(2) 東京会場（定員：120名）

日時：2016年9月23日（金） 9:30～17:30（開場 9:00）

会場：三田 NNビル地下1階 三田 NNホール（東京都港区芝 4-1-23）

会場詳細はこちら <http://www.mita-nn-hall.com/access/access.html>

アクセス：JR 田町駅 徒歩 5分、都営三田線三田駅直結 A9 出口、都営浅草線三田駅 徒歩 3分

参加費：無料

主催者：原子力発電環境整備機構（NUMO）

お申し込み

参加をご希望の方は、メールにて必要事項をご記入の上、以下送付先へお申し込み願います。各会場とも定員に達した時点で締め切らせていただきます（先着順）のでご了承ください。

メール送付先：tech@numo.or.jp

記入必要事項：①企業・団体名、②所属・役職、③所属学会、④氏名（漢字）、
⑤氏名（フリガナ）、⑥メールアドレス、⑦電話番号、⑧参加希望会場

申し込み締切：2016年9月16日（金）17:00

お問い合わせ：技術部 亀之園、藤山 Tel：03-6371-4004

9:30-9:40	開会挨拶
9:40-10:00	ワークショップの趣旨説明（包括的技術報告書作成の背景等）
10:00-10:50	セッション（1）：安全確保の基本的考え方
10:50-11:50	セッション（2）：地層処分に適した地質環境の選定およびモデル化
11:50-12:50	昼休憩
12:50-14:00	セッション（3）：処分場の設計と工学技術
14:00-14:45	セッション（4）：閉鎖前の安全性の評価
14:45-15:00	休憩
15:00-16:20	セッション（5）：閉鎖後長期の安全性の評価
16:20-17:20	セッション（6）：わが国における地層処分の技術的実現性
17:20-17:30	閉会挨拶

【包括的技術報告書について】

NUMO は 2000 年の設立以来、地域からの応募という方法で地層処分場の建設地選定のための調査を受け入れていただくための活動を、全国を対象として行ってきました。この活動と並行して、地層処分のさらなる安全性の向上を目指し、技術開発を進めてきました。

今後、国により科学的有望地が提示される予定であり、今後とも各地域に対し文献調査の協力のための対話活動を進めていきます。事業者である NUMO としては、文献調査を受け入れていただいた後、どのようにそのサイトの調査を進め、安全な処分場を設計・建設・操業し、閉鎖後も長期間にわたって安全性を確保しようとしているのかを総合的に示し、文献調査に即応できる技術的な準備を整えていることを示すことは、事業の円滑な推進にとって重要と考えています。

このため、現在、包括的技術報告書「わが国における安全な地層処分の実現性 ―サイト選定で想定される多様な地質環境を対象としたセーフティケース―」の取りまとめを進めており、主に以下のような成果が得られています。

- ① 放射性廃棄物を長期にわたって隔離し閉じ込めるための、処分場を設置する地質環境に必要な条件と望ましい条件を明確にし、この条件に応じた適切な地質環境を選定する技術を整えたこと。
- ② 我が国で地層処分の対象となり得る代表的な三種類の候補母岩について、地下深部で得られている断層の存在状況等の特徴を反映させて作成した「地質環境のモデル」に対して、設計および建設・操業・閉鎖に関する技術開発成果に基づき、要求仕様を満足できる処分場を設計できること。
- ③ 設計された処分場について、地質環境や処分場の仕様の特徴を反映し、閉鎖前及び閉鎖後長期にわたる安全評価を行うことが可能であり、その結果は国際機関や諸外国の規制に示された、あるいは国内類似施設に関する安全基準等に照らして、安全を確保できる見通しが得られていること。
- ④ 処分場の設計・建設・操業に関する技術の信頼性や、我が国の地質環境に対する適応力を高めるため、今後、技術開発や品質保証活動、知識管理活動、人材育成に適切に取り組む必要があり、そのための基盤が整えられつつあること。

今後、本報告書に集約した技術を基盤として、事業の各段階での最新の科学的知見を踏まえて、繰り返し安全性を確認するとともに更なる技術改良を進めていきます。